

派遣研究員

氏名	阿 盈娜 (A Yingna)
所属	歴史民俗資料学研究所 博士後期課程
派遣期間	2019年10月22日～2019年11月11日
派遣先	北京師範大学文学院 民間文学研究所
研究課題	モンゴル族の“デージ”儀式と古代東北遊牧民の食事風俗との比較—中国青海省海西州のモンゴル族を例として



中国青海省モンゴル族の歴史について ——中国青海省海西州モンゴル族を例として

阿 盈娜

青海省について、『清史稿』巻七十九に「青海：禹貢西戎之域。（袤延二千餘里。至京師五千七十里。東及北界甘肅，西界西藏，南界四川。三代屬西羌。……元為貴德州及吐蕃朵甘思等處，屬吐蕃等處宣慰司。明為西番地。正德四年，始為蒙古部酋所據）」と記載されている。意味は「青海は禹貢²によると、西戎の地域であると認識された。（面積が二千里余り、首都から五千七十里の距離がある。東と北は甘肅、西はチベット、南は四川と隣接する。三代が西羌³属する。……元朝では貴德州と吐蕃⁴、朵甘思などの地域であり、宣慰司は吐蕃などの地域に属していた。明朝では西番の地域であった。正徳4年からモンゴル部に属した）」である。

上述した内容と他の文献から見ると、周代以前から青海省は西戎、西羌と吐谷渾など古代中国北部に属しており、元朝と明朝の時代からモンゴル部に属した。1725（清世宗雍正3）年、清政府が西寧に青海弁事大臣を設置した。1930（民国18）年、中華民国政府が青海省を設置し、1949年に中華人民共和国の一省になった。現在の青海省は中国北西、チベット高原北東部にあり、標高2600～3200mの間に位置している。東北部の黄河、湟水流域とツァイダム盆地の方が他の地域より標高が低い。青海省は中国におけるモンゴル族が居住する地域の一つである。

1 青海省モンゴル族の歴史

古文書から青海省モンゴル族について探してみると、長い歴史を持つモンゴル族が、現在、内モンゴル自治区ホルンボイル草原に居住していることがわかる。モンゴ

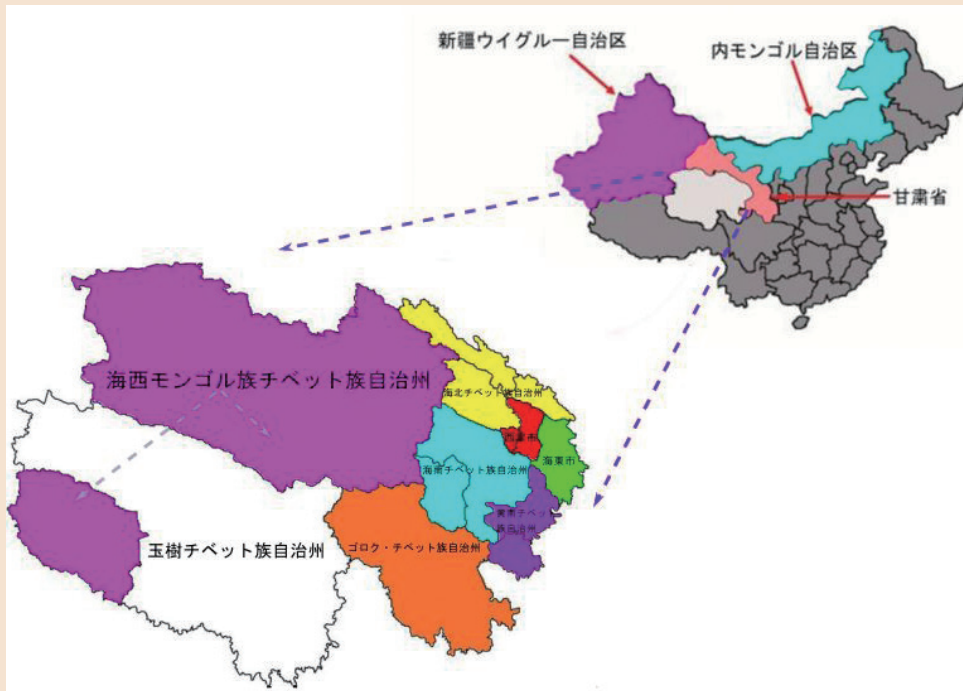
ル帝国の拡大により、13世紀にモンゴル族は初めてチベット高原に侵入した。その後の歴史文献から見ると、モンゴル族が大々的に青海地域に侵入し、勢力を拡大したことが2回あった。

(1) 元朝から清朝前期の青海省モンゴル族の歴史

『元史』には「西寧州，唐置鄯州，理湟水縣，上元間没於土蕃，號青唐城。宋改為西寧州。元初為章吉特駙馬分地。至元二十三年，立西寧州等處拘摧課程所。二十四年，封章吉特為寧濮郡王，以鎮其地。」⁵と記載されている。この内容と『卫拉特研究』などの文献から見ると、モンゴル帝国時期、モンゴル族は初めてチベット高原に侵入した。西暦1227（チンギス・ハーン24）年、チンギス・ハーンは臨洮、河州と西寧などの地域に進軍する。そして、西暦1229年、チンギス・ハーンの女婿、章吉を寧濮郡王とし、青海地域を守った。その後、14世紀から15世紀初頭にかけて、西モンゴルのエセン・ハーンと東モンゴル各部落が青海地域に侵入したことがあった。

『明史』には「西寧即古湟中，其西四百里有青海，又曰西海⁶，水草丰美。番人環居之，専務畜牧，日益繁滋，素号樂土。正徳四年，蒙古部酋亦不剌、阿尔秃厮犯罪其主，拥众西奔。瞰知青海饶富，击而据之，大肆焚掠。」⁷と記載されている。以上の内容と『青海民族人口問題検討』などの文献中の青海省モンゴル族に関する記述から、以下のことが分かる。1470（明成化6）年、東モンゴルのダヤン・ハーンが勢力を拡大するために、他の勢力との戦いを続けた。その中で、イブラヒムとマン





●図1 中国青海省の位置と行政区画

ドライアグラフの勢力はダヤン・ハーンの勢力争いにおいて劣勢となり、最終的におよそ1万の部族を連れて青海省ツァイダム地域に敗走した。これは元朝の北遷後、大勢のモンゴル族が青海地域に移住した始まりとされる。

(2) 土黙特部アルタン・ハーンの部族の青海地域における活動

『明史』には「時北部俺答猖獗，歳掠宣、大諸鎮。又羨青海富饒，三十八年携子賓兔、丙兔等数万衆，占据其地。」⁸と記載されている。以上の内容と『ホシュートモンゴル史』などの文献中の青海省モンゴル族に関する記述から、以下のことが分かる。西暦1559年から1582年、東モンゴルの土黙特部モンゴルのアルタン・ハーンは部隊を引率して、西海に進出する。その土黙特部は西海で29の部落を持ち、数万人がいたという。アルタン・ハーンはチベット仏教四大宗派の一つであるゲルク派を信じて、ラサ北部に建立されたゲルク派の六大寺院の一つ、セラ寺の座主であるソナムギャムツォを青海省と内モンゴル地域に連れていき、タール寺（クンプン寺）と大召寺（シレート・ジョー寺）を建てた。この時期からゲルク派の影響がモンゴル地域で次第に大きくなっていった。

(3) 明朝末期から清朝末期、西モンゴルホシュート部の侵入と青海省モンゴル族の主体へ

『清史稿』には「清初，有元太祖弟哈布図哈薩爾之裔，号顧實汗，自西北侵有其地，遣使通貢。自分部衆為左右儿境。」⁹と記載されている。他の文献と比較してみると、17世紀、西モンゴル四オイラト族連合のホシュート部の首長となっていたグーシ・ハーン（トゥルバイフ）はオイラト族連合軍を統率し、現在の中国ウイグル地域から出発し、チベット高原を占領した。そして、グーシ・ハーンは6番目の息子ダライ・バガトゥル・ドルジにチベット地域を、4番目の息子ダライ・ウバシ・バヤン・アブガイ・アユシに現在の内モンゴル自治区の最西部に位置するアルシャー盟を押さえさせ、他の8人の息子と一緒にウイグル地域から来たトルグート部の一部族とチョロース部の一部族に青海地域を押さえさせた。

清朝の雍正元（1723）年、青海地域ホシュート部のロブサンダンジンが清朝を攻撃したが敗走を余儀なくされた。『青海記』には「蒙古 青海和碩特部二十一旗綽羅斯部二旗輝特部一旗土爾扈特部四旗喀爾喀部一旗凡二十九旗」¹⁰と記載されている。この内容と『ホシュートモンゴル史』などの文献から見ると、清朝は当時グーシ・ハーンの8人の息子（青海八台吉）の封土を19個旗に改編し、他のウイグル地域から来た部族と一緒に29すべての「旗」を設置し、土司¹¹は40に増えた¹²。さらに西寧弁事大臣職を設置して、現地ホシュート部などのモンゴル族を統轄したのである。





●図2 青海省の行政区画とモンゴル族分布

II 青海省海西州モンゴル族の歴史

青海省のモンゴル族が居住する地域に以下のとおりである。西寧市の大通回族土族自治県と湟源県。海東地域の互助土族自治県、共和回族土族自治県と樂都県。海南チベット族自治州の同徳県。海北チベット族自治州的剛察県、海晏県と祁連県。黄南チベット族自治州的河南モンゴル族自治県、海西モンゴル族チベット族自治州、である。以下は青海省海西モンゴル族チベット族自治州的モンゴル族の歴史について論述する。

1949年中華人民共和國が建立した後、11月に青海省で都蘭人民政府を成立した。そして、1954年1月海西モンゴル族チベット族カザフ族自治区を成立したが、1955年6月海西モンゴル族チベット族カザフ族自治州に改称した¹³。1984年5月、海西モンゴル族チベット族カザフ族自治州アエドンチュケカザフ族自治区に居住するカザフ族が全部ウイグル地域の故郷に帰った。1985年4月に海西モンゴル族チベット族カザフ族自治州を海西モンゴル族チベット族自治州に改称した。その後、1995年当時ウイグル地域に移住したカザフ族が海西州大柴旦ユッチャ郷にもう一度移住し、現地のモンゴル族と一緒に居住している。

現在、青海省のモンゴル族は前述したホシュート29旗のモンゴル族の後裔である。その中で、八つのモンゴル旗の部分が青海省海西モンゴル族チベット族自治州に含まれる。以下で、この八つのモンゴル旗について紹介する。

(1) 科爾泉古扎薩克固山貝子

科爾泉古扎薩克固山貝子はグーシ・ハーンの息子セチェン・ダイチン台吉（車臣岱青鄂木布）の封土である。清朝のときは北右翼末旗として設置された、セチェン・ダイチン台吉の長子モルガン台吉の封土である。この封土は現在、青海省海西州ツァイダム盆地デリンハ市バイン川流域であり、現地のモンゴル族はこの地域を「科泉古扎薩克」（ケエルグザサク）と呼ぶ。

(2) 茶卡王旗

茶卡王旗はグーシ・ハーンの息子ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉（達頼巴図爾多爾濟）の封土である。清朝のときは北左翼末旗として設置された、ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉の次子ツワンラップデオンの封土である。この封土は現在、青海省海西州鳥蘭県チャカ塩湖の周辺であり、現地のモンゴル族はこの地域を「茶卡」（チャカ）と呼ぶ。

(3) 柯柯貝勒旗

柯柯貝勒旗はグーシ・ハーンの息子ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉（達頼巴図爾多爾濟）の封土である。清朝のときは西後旗と設置され、ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉の息子サチュモルガン台吉の封土である。この封土は現在青海省海西州鳥蘭県サエルケ塩湖の周辺であり、現地のモンゴル族はこの地域を「柯柯徳」（ココデ）と呼ぶ。





●写真1 青海省海西州グーシ・ハーン彫塑群

(4) 青海王旗

青海王旗はグーシ・ハーンの息子ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉（達頼巴因爾多爾濟）の封土である。清朝のときは西前旗として設置された、ダライ・バガトゥル・ドルジ台吉の息子ツワンラップデオン台吉の息子エルケバルジュの封土である。この封土は現在、青海省海西州烏蘭県チャハン湖の周辺であり、現地のモンゴル族はこの地域を「青海王旗」や「ワンガ」と呼ぶ。

(5) 巴隆扎薩旗

巴隆扎薩旗はグーシ・ハーンの息子エルデニ・ダイチン・ホルムシ（額爾德尼岱青瑚魯木什）の封土である。清朝のときは西右翼後旗として設置された、エルデニ・ダイチン・ホルムシ台吉の息子ピントの封土である。この封土は現在、青海省海西州都蘭県バロン郷であり、現地のモンゴル族はこの地域を「巴隆」（バロン）と呼ぶ。

(6) 科爾尙古貝子

科爾尙古貝子はグーシ・ハーンの息子イルドゥン・サンガルジャイ（伊勒登桑噶爾札）の封土である。清朝のときは北左翼旗として設置された、イルドゥン・サンガルジャイ台吉の孫ソナムダシの封土である。この封土は現在、青海省海西州ツァイダム盆地デリンハ市ブロンジル川の流域であり、現地のモンゴル族はこの地域を「科爾尙古貝子」（ケエルグバス）と呼ぶ。

(7) 宗加扎薩旗（宗合受）

宗加扎薩旗はグーシ・ハーンの弟セリンハタン・パテツルの封土である。清朝のときは西左翼後旗として設置された。この封土は現在、青海省海西州都蘭県ゾンジャ地域であり、現地のモンゴル族はこの地域を「宗加扎薩旗（宗合受）」（ゾンジャザサグ、ゾンホシュとも呼ぶ）と呼ぶ。

(8) 台吉乃爾旗

台吉乃爾旗はグーシ・ハーン一族の兄であるハナケトシエトの封土である。清朝のときは西右翼中旗として

設置された。この封土は現在青海省海西州ゴルムド市地域であり、現地のモンゴル族はこの地域を「台吉乃爾」（タイジナル）と呼ぶ。

現在、青海省海西州モンゴル族の主体はグーシ・ハーンのホシュト部の後裔である。1950年以前の現地のモンゴル族は、春夏秋冬の四季による草場の状態によって宿営地を移動する伝統的な遊牧生活を続けていた。1980年代になると、人民公社の解体に伴い、個人への家畜の分配が始まり、放牧地も家族より分配したので、長距離移動および頻繁な移動は減少し、固定家屋であるバイシンも少しずつ建築され始める。2000年以降は、現地のモンゴル族の中には牧畜を中心としたそれまでの生活様式を続ける者たちもいたが、試験を受けて公務員、医者、教師などの仕事に就く人々も増えた。牧畜業もかつてとは大きく変わった。牧民も今では車や電化製品など先進的な技術や道具を使い、牧畜地には大きな家屋とゲルを持ちながら、街なかにアパートを購入し、昔よりも豊かな生活を送っている。彼らはモンゴルの伝統文化の伝承をベースに、青海・チベット高原の自然環境や社会環境、他の民族文化などからの諸要素の影響を受けて、特徴ある独自の文化を保っている。

まとめ

以上の内容から見ると、モンゴル族が青海地域で長い歴史を持つ民族であることが分かった。13世紀にモンゴル族は初めてチベット高原に侵入し、その後も大々的に青海地域まで勢力を拡大したことが2回あった。さらに、歴史上西モンゴルと東モンゴルが青海地区の争奪をめぐってたびたび対戦していることは、この地域の重要性を表している。現在、青海省海西州で生活するモンゴル族の現地の地名の呼び名や日常生活様式からは、彼らがかつての部族名を今に残すとともに、伝統的な民族文化を継承していることがわかる。

【注】

- 1 『志』五十四、地理二十六 『清史稿』卷七十九 p. 2455
- 2 古代中国の政治・地理書。『書経』の中の一編。伝説上の聖王、禹が、全国を九つの州に分け、各地の山脈・水系・地理・物産を調査し、貢賦の制度を定めた事跡を記したもの。
- 3 古代より中国西北部に住んでいたチベット系の遊牧民族。漢代には西羌とよばれ、西寧西方には臨羌県もおかれた。唐代には一族のタングート（党項）族が有力となり、その一部は11世紀に西夏を建国。
- 4 吐蕃とは、中国古代チベット族政権の名前である。7世紀から9世紀までチベット高原に存在していた。
- 5 宋濂、王祖庚『志』第十二、『元史』卷六十 p. 1452
- 6 西海郡。前漢により設置され、隋代後期にも再置された。現在の中国青海省に位置する。



- 7「《列传》第二百十八，《西域二》，『明史』卷三百三十 p. 8544
8「《列传》第二百十八，《西域二》，『明史』卷三百三十 p. 8546
9「《志》五十四，地理二十六」，『清史稿』卷七十九 p. 2455
10 康敷鎔 1968『青海記』成文出版社 p. 5
11 18 世紀、清朝の雍正帝が青海モンゴル族を盟旗制により再編、チベット人諸侯たちには各級の「土司職の称号を与

え、所領を安堵する」という支配体制を築いた。

- 12 納·巴生、李恺、刘昆黎. 和硕特蒙古史 [M]. 新疆人民出版社, 2004. 138.
13 海西蒙古族藏族哈萨克族自治州编辑委员会. 青海省海西蒙古族藏族哈萨克族自治州概况 [M]. 少数民族自治地方概况丛书, 1963. 7.

有关中国青海省蒙古族的历史 ——以中国青海省海西州的蒙古族为例

历史民俗资料学研究科 博士后课程 阿 盈娜

青海省位于我国西北部、青藏高原东北部。全省大部分地区的海拔在 3000 米至 5000 米之间，东北部的黄河、湟水流域及柴达木盆地的海拔相对较低。《清史稿卷七十九》载：“青海：禹贡西戎之域。（袤延二千余里。至京师五千七十里。东及北界甘肃，西界西藏，南界四川。三代蜀西羌。……元为贵德州及吐蕃朵甘思等处，属吐蕃等处宣慰司。明为西番地。正德四年，始为蒙古部酋所据。）”¹由此可知，字周朝以来青海地区属于古代中国北部的西戎，西羌和吐谷浑等民族统治。到元朝及明朝是又归蒙古族统治。清世宗雍正三年（1725 年），清政府在西寧设置青海办事大臣统领青海地区。民国 18 年（1930 年），国民政府在青海地区设省，1949 年青海省成为中华人民共和国的一部分。青海省是中国蒙古族的聚居区之一。现在青海省的蒙古族分别居住在西宁市大通回族土族自治县和湟源县。海东地区的互助土族自治县，共和回族土族自治县和乐都县。海南藏族自治州同德县。海北藏族自治州的刚察县，海晏县和祁连县。黄南藏族自治州的河南蒙古族自治县及海西蒙古族藏族自治州。以下将对青海省蒙古族的历史和分布进行详细论述。

一、青海省蒙古族的历史

通过检索有关青海省蒙古族的历史古籍可知，有着悠久历史的蒙古族原来居住在现在内蒙古自治区呼伦贝尔大草原。随着蒙古帝国的强大，十三世纪时蒙古族首次侵入青藏高原地区。从历史文献可知，随后蒙古族先后有两次，大规模入侵并统领青海地区。

1. 元代至清前期的青海蒙古族

《元史》载：“西宁州，唐置鄯州，理湟水系，上元间没于土蕃，号青唐城。宋改为西宁州。元初为章吉驸马分地。至元二十三年，立西宁州等处拘催课程所。二十四年，封章吉为宁濮郡王，以镇其地。”²由以上内容及《卫拉特研究》等文献可知，蒙古族最早进入青海，是在蒙古

汗国时期。公元 1227 年（成吉思汗 22 年），成吉思汗进军临洮、河州及西宁等地。公元 1229 年，将青海地区纳入蒙古汗国版图之内，并封驸马章吉为宁濮郡王镇守。随后从 14 世纪到 15 世纪初期，青海地区先后有西蒙古也先汗及东蒙古等部落的入侵。

《明史》载：“西宁即古湟中，其西四百里有青海，又曰西海³，水草丰美。番人环居之，专务畜牧，日益繁滋，素号乐土。正德四年，蒙古部酋亦不刺、阿尔秃厮犯罪其主，拥众西奔。瞰知青海饶富，击而据之，大肆焚掠。”⁴据以上内容及《青海民族人口问题探讨》等文献中有关青海省蒙古族的相关记载可知。公元 1470 年（明成化六年），东蒙古可汗达延（明人称小王子）逐步消灭东蒙古地区内的割据势力。两个较大的封建主亦卜刺与满都赉阿固勒呼（明史称阿尔秃厮）在内部争斗中被达延汗击走，率领部众逃出河套，进入柴达木地区。这是元朝北迁后成批的蒙古人移居青海之始。

2. 从 1559 年到 1582 年，以土默特部阿勒坦汗为首的蒙古部落在青海地区的活动

《明史》载：“时北部俺答猖獗，岁掠宣、大诸镇。又羨青海富饶，三十八年携子宾兔、丙兔等数万众，占据其地。”⁵根据以上内容及《卫拉特蒙古史》等有关青海蒙古族的记载可知。从 1559 年到 1582 年间，东蒙古土默特部达延可汗等部落率部陆续进入青海地区，最终由阿勒坦汗（俺答汗）先后留 29 个部落于此，有数万人，青海地区成为了土默特蒙古的一块领地。阿勒坦汗进入青海后开始信仰藏传佛教格鲁派，邀请拉萨北部格鲁派六大寺院之一的色拉寺主持索南嘉措·胡图克图到青海及内蒙古地区，建造了塔尔寺和大召寺。从这个时期格鲁派的影响开始在蒙古地区增强。

3. 从明末到清末，西蒙古和硕特部迁入并成为青海蒙古的主体



《清史稿》载：“清初，有元太祖弟哈布图哈萨尔之裔，号顾实汗，自西北侵有其地，遣使通贡。自分部众为左右儿境。”⁶与其它文献比较可知，十七世纪，西蒙古四卫拉特部首领固始汗率领卫拉特联合军，从现在中国新疆维吾尔自治区出发，进入并占领了青藏高原地区。随后，固始汗将西藏地区归第六子達賴巴圖爾多爾濟统率。位于内蒙古最西部的阿拉善地区归第四子達賴烏巴什巴延阿布該阿玉什管辖。青海地区划归顾实汗的其他八个儿子及从新疆维吾尔地区一起出来的土尔扈特部和绰罗斯的一部分分别封地管辖。

清朝雍正元年（1723年），青海蒙古亲王罗卜藏丹津起兵反清，遭到清政府镇压，青海蒙古族被杀及逃散者过大半。《青海記》载：“蒙古 青海和碩特部二十一旗綽羅斯部二旗輝特部一旗土爾扈特部四旗喀爾喀部一旗凡二十九旗。”⁷由此内容及《卫拉特蒙古史》等文献可知，清朝雍正三年将固始汗八个儿子（八台吉）在青海地区的封地改编为19个旗，其他从新疆地区来带的部落一起总共改编为29旗，后来又增加土司至四十个，设西宁办事大臣统辖。⁸

二、现在青海省海西州蒙古族的历史

1949年中华人民共和国成立以后，11月在青海省成立了都兰人民政府。随后，1954年1月成立了海西蒙古族藏族哈萨克族自治区，但到1955年6月改称为海西蒙古族藏族哈萨克族自治州。⁹1984年5月原居住在海西蒙古族藏族哈萨克族自治州阿尔顿曲克哈萨克族自治区的哈萨克族全部回到了故乡新疆维吾尔自治区。因此1985年4月海西蒙古族藏族哈萨克族自治州改名为海西蒙古族藏族自治州。随后，当时移居新疆的哈萨克族于1995年又迁回了海西，现居住在大柴旦鱼卡乡。

现在居住在青海省的蒙古族是前文介绍过的和硕特29个旗蒙古族的后裔。其中8个旗的封地在现青海省海西蒙古族藏族自治州。以下将对这8个蒙古旗进行简要介绍。

1, 科泉古扎薩克固山貝子

科泉古扎薩克固山貝子是固始汗的儿子車臣岱青鄂木布台吉的封地。清朝时在此设立北右翼末旗，为車臣岱青鄂木布台吉长子墨尔根的封地。这一封地位于现青海省海西州柴达木盆地德令哈市巴音河流域，当地的蒙古族俗称这里为“科泉古扎薩克”。

2, 茶卡王旗

茶卡王旗是固始汗的儿子達賴巴圖爾多爾濟台吉的封地。清朝时在此设立北左翼末旗，为達賴巴圖爾多爾濟台吉的次子策旺喇布坦的封地。这一封地位于现青海省海西州乌兰县茶卡盐湖周边，当地的蒙古族俗称这里为“茶卡”。

3, 柯柯貝勒旗

柯柯貝勒旗是固始汗的儿子達賴巴圖爾多爾濟台吉的封地。清朝时在此设立西後旗，为達賴巴圖爾多爾濟台吉的儿子萨楚墨尔根的封地。这一封地位于现青海省海西州乌兰县赛什克盐湖周边，当地的蒙古族俗称这里为“柯柯德”。

4, 青海王旗

青海王旗是固始汗的儿子達賴巴圖爾多爾濟台吉的封地。清朝时在此设立西前旗，为達賴巴圖爾多爾濟台吉的次子策旺喇布坦台吉的儿子額爾克巴爾珠尔的封地。这一封地位于现青海省海西州乌兰县察罕诺尔湖周边，当地的蒙古族俗称这里为“青海王旗”。

5, 巴隆扎薩旗

巴隆扎薩旗是固始汗的儿子額爾德尼岱青瑚魯木什台吉的封地。清朝时在此设立西右翼後旗，为額爾德尼岱青瑚魯木什台吉的儿子秉图的封地。这一封地位于现青海省海西州都兰县巴隆乡，当地的蒙古族俗称这里为“巴隆扎薩”。

6, 科爾泉古貝子

科爾泉古貝子是固始汗的儿子伊勒登桑噶爾札台吉的封地。清朝时在此设立北左翼旗，为伊勒登桑噶爾札台吉的孙子索诺木达什的封地。这一封地位于现青海省海西州柴达木盆地德令哈市布隆吉尔河流域，当地的蒙古族俗称这里为“科爾泉古貝子”。

7, 宗加扎薩旗（宗合受）

宗加扎薩旗（宗合受）是固始汗的弟弟色梭哈坦巴圖尔的封地。清朝时在这里设立西左翼後旗。这一封地位于现青海省海西州都兰县宗加地区，当地的蒙古族俗称这里为“宗加扎薩旗（宗合受）”。

8, 台吉乃爾旗

台吉乃爾旗是固始汗的族兄哈纳克土谢图的封地。清朝时在这里设立西右翼中旗。这一封地位于现青海省海西州格尔木市地区，当地的蒙古族俗称这里为“台吉乃爾旗”。

现在居住在青海省海西州的蒙古族的主体为固始汗和硕特部的后裔。1950年之前当地的蒙古族一直延续着传统的以春夏秋冬四季草场的状态为基准不断转移牧场的游牧生活。饲养的牲畜主要有山羊，牦牛，绵羊，马和骆驼等。进入1980年代，伴随着人民公社的解体，开始将家畜分配给个人，牧场也分别按照家庭进行了分配，因此像以往的长距离和频繁移动的游牧方式开始减少，被称为“baixin”的固定式房屋开始建造了起来。2000年以后当地多少蒙古族还保持着原有的以畜牧业为主的生活方式，但也有很多通过参加考试成为并从事着例如，公务员，医生，教师等工作。畜牧业也与从前大有不同，牧民现在多使用汽车，电器等先进技术和工具，在牧区拥有大房子和蒙古包的同时，在城市里还购买了公寓，过着比以前更加富裕的生活。在文化方面，他们在传承蒙古族的传统文



化的基础上，也收到了青藏高原自然环境，社会环境及其他民族文化要素的影响，从而形成了他们独具特色的文化特征。

结语

从以上内容来看，蒙古族在青海地区拥有悠久的历史。从13世纪蒙古族最初进入青藏高原以来，蒙古族大规模进入青海地区的次数有两次。并且，从历史上西蒙古和东蒙古为了争夺青海地区开展了多次战役，体现出了这一地区的重要性。从现居住在青海省海西州的蒙古族对当地地名的俗称及日常的生活方式，可以看出当地的蒙古族在保留有原有部落名称的同时，还继承了其传统的民族文化。

【注】

1 《清史稿》，卷七十九，《志》五十四，地理二十六，第二四五

五页。

2 《元史》卷六十，《志》第十二，第一四五二页。

3 自《魏书·吐谷浑传》和《水经注》起，西海又被称作青海。《水经注》上说：“卑禾羌海者也，世谓之青海”。

4 《明史》卷三百三十，《列传》第二百十八，《西域二》，第八五四四页。

5 《明史》卷三百三十，《列传》第二百十八，《西域二》，第八五四六页。

6 《清史稿》卷七十九，《志》五十四，地理二十六，第二四五五页。

7 康敷镛. 青海記 [M]. 成文出版社，中華民國 57. 5.

8 纳·巴生、李恺、刘昆黎. 和硕特蒙古史 [M]. 新疆人民出版社，2004. 138.

9 海西蒙古族藏族哈萨克族自治州编辑委员会. 青海省海西蒙古族藏族哈萨克族自治州概况 [M]. 少数民族自治地方概况丛书，1963. 7.

